

(様式) 府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書 (第3回)

日 時	令和2年2月8日 (土) 14:00~16:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房 本 晃	社会福祉法人 バオバブ福祉会理事	平 野 智 之	校長
	菊 地 栄 治	早稲田大学教授	藤 原 和 子	教頭
	松 岡 日出雄	松原市立松原第三中学校長	木 村 悠	首席
	孫 智子	本校PTA会長	伊 藤 あ ゆ	首席
			山 口 裕 子	人権教育主担
			中 川 泰 輔	人権教育主担
	教職員等			
	南岡 靖之 (1学年代表) 宮崎 舞 (1学年人担) 武藤 利佳 (1学年) 谷口 彩 (1学年) 岡本 虹穂 (1学年) 林 知彦 (2学年代表) 亀田 恵美 (2学年人担) 清川 尚哉 (2学年) 西尾 奈菜 (2学年) 岩崎 江津子 (3学年代表) 眞杉 凌 (3学年人担) 宮城 歩実 (3学年) 坂東 修平 (3学年)			
おもな テーマ	今年度のふりかえりと次年度に向けて 運営協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	<p>① 平成31年度、令和2年度学校経営計画及び学校評価、学校教育自己診断アンケート (校長) 授業改善について、学校全体の課題として進められた。来年度は選択科目のラインナップを決めていく。</p> <p>② 深い学び2nd シーズンより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目の枠組みと来年度の課題について。評価方法について更なる検討が必要。(木村首席) ・グループワークにこだわっていたが、途中から生徒にどんな風になってほしいかを考えるようになり、答えよりも過程を評価できるようになった。(西尾教諭) ・評価には客観性を持たせることが大切。ただ、グループワークなどの取り組みの評価が生徒の地震にもつながるので数値化できる評価と二段構えにしたい。(林教諭) ・進路モデルと目指す生徒の姿の共有が課題。高校で出会った問いを考え続けたいから、進学するというプロセス。そのために、教材を学ぶのではなく教材を通して何を学ぶのか、で授業を作ることが大切。(中川教諭) 			
提 言 内 容・改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践のふりかえり、項目③の視覚化はもっとできる。 ・進路保障については、進学は奨学金つまり借金を背負っていくのでかなり意欲を持たせて。就職する生徒は誇りを持てるように。 ・テストだけで評価できないという考えは中学校でも浸透している。しかし、「手を挙げたら評価する」と伝えているので、手を挙げる生徒は多いが、深まっているといえるかどうかはわからない。過程を評価するための手法の研究をすすめて。 ・大学でも1回生からの就職活動で関係性が希薄。一人一人と向き合っていくことが大切。 ・評価については客観的なもの、数字に出るものが必要だと思うが、そうでないもの、表現力や人間性もしっかり見て行ってほしい。きもちの表現がへたな生徒もいるので表現力をのばしてほしい。 ・生徒が自分で考え行動できるようになるために、力になってほしい。グローバルな問題、例えば環境問題などの大きな課題も、まずは身近なところからしていかなければならない。 			